

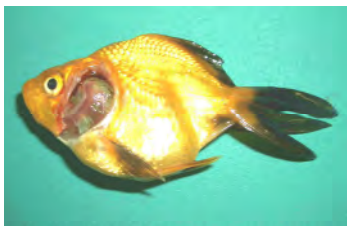
観賞魚混合感染症対策

キンギョやニシキゴイに新しいタイプのカラムナリス病やウイルス病など、大きな被害を及ぼす病気が発生し、それぞれの病気について対策法の開発を行って来ました。しかし、最近、これらの新たな疾病と従来から見られる細菌や寄生虫との混合感染による被害が増えています。

混合感染では、死亡率が高いほかに再発する事例が多く見られ、混合感染対策が緊急な課題となっております。

薬剤の投与方法や池水管理等により、混合感染症の治療と再発防止法を確立しました。

カラムナリス病とキンギョヘルペス病との混合感染



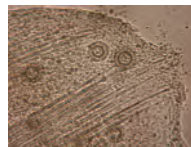
カラムナリス病とヘルペスウイルスに混合感染したキンギョ

この混合感染が最も多くみられます。キンギョを取り揚げて清水に移し、夕方からニフルスチレン酸ナトリウム2ppmで一晩薬浴を行い、次の朝から水温33℃の水で4日間飼育して、その後通常の水温に戻す方法が有効です。

カラムナリス病と寄生虫の混合感染

トリコジナとの混合感染が多く見られます。ニフルスチレン酸ナトリウム2ppm、メチレンブルー2ppm、トリクロルホン0.3ppmの3種類の薬剤による混合薬浴が効果的です。

寄生虫



トリコジナ



アピオゾーマ



ギロダクチルス

再発防止

再発は、水環境が変化したときに多く見られます。水環境の変化とは、植物プランクトンが枯死し、アンモニアや亜硝酸が多くなった状態をいいます。これを「水変わり」と呼んでいます。この状態になった時が混合感染の再発が多いです。そこで、再発防止策としては、注水や底泥の管理等で植物プランクトンの繁殖を良い状態に保つことが大切です。



再発しやすい池

水環境が変化(水変わり)した池



再発しにくい池

植物プランクトンの状態が良い池